

1. 研究の概要

(1) 研究主題

主体的に考え，豊かに表現し，共に考えを深める子どもの育成
～「学びたい」「伝えたい」が広がる授業づくり～（2年次）

(2) 研究主題設定の理由と研究仮説

昨年度も「主体的に考え，豊かに表現し，共に考えを深める子どもの育成～「学びたい」「伝えたい」が広がる授業づくり～」を研究主題に掲げて，児童の主体的な問題解決力や表現力の育成を図ってきた。その結果，基礎的・基本的な知識及び技能の定着が少しずつ向上し，話し合いの場で互いの考えを伝え合うことを楽しむ児童が少しずつ増えてきた。しかし，児童の実態や授業研究会，全国学力・学習状況調査，県学習状況調査，その他各種アンケートの結果をもとに考察すると，以下のようなことが課題として上げられる。

①「主体的に学ぶ」力の向上

「共に考えを深める」ためには，自分の考えをもって友達と聴いたり話したりしながら学習活動を進める必要がある。しかし，何を考えるとよいのか，どのように学んでいけばよいのかが分からず，自分の考えがもてない児童がみられる。本時や単元のゴールを明確にし，児童が見通しをもって主体的に課題解決していこうとする単元構成が必要である。

②「伝え合う」力の向上

「学びたい」「伝えたい」が広がるためには，自分の考えを分かりやすく表現する必要がある。しかし，答えは出せたが答えまでの過程が説明できないというつまずきが見られるなど，順序立てて分かりやすく説明する力が不足していて相手に伝えることができない場面があった。また，さらに，目的や条件、意図に合わせて説明したり，ICTを活用して表現したりする力も差がみられる。

このような課題から子どもがゴールを意識し，見通しをもって学べるように，導入や発問の仕方を工夫し，子どもの振り返りを授業に生かして授業を展開することで，主体的に学習に取り組み，自分の思いをもって共に考えを深めようとする姿を育てることができるのではないかと考え，本研究主題を設定した。

(3) めざす子どもの姿

- ①主体的に課題を解決しようとする子ども
- ②自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる子ども
- ③学んだことをこれからの生活に生かそうとする子ども

(4) 研究の重点と具体的な手立て

重点 主体的・対話的な学びを促す授業改善

(1) 主体的な学びに向かうための工夫

- 必要感のある課題の設定
- 本時のゴールの明確化
- 見通しをもって学ぶための単元計画
- 振り返りを生かす授業づくり

(2) 対話して学ぶ表現の場を工夫した授業展開

- 反応しながら聴く・つなげる発表の意識化
- 目的を明確にした話合いの場の設定
- 考えを引き出し、深める発問の工夫
- 学びの質を高めるための ICT の活用

学びの基盤作り（継続する取り組み）

- 「学びのきほん」「教えのきほん」に基づいた共通実践
- 朝のスキルタイムの効果的な活用
- 家庭学習の内容の質的向上
- 読書指導・音読指導の工夫
- 全校テスト（国・算）の実施

(5) 研究実践の基本方針

- ①基本的に水曜日を研修日とし、計画的に全体研修、授業研究会、個人研修を進めていく。
- ②「学び合い」の素地となる基礎的・基本的学力を、各教科の中で確実に定着させる。
- ③一人一回以上の研究授業を行い、お互いに意見を交換したり指導者の助言を受けたりして、それぞれの指導力の向上に努める。
- ④正しい児童理解に基づいた望ましい人間関係形成のため、特別支援教育や生徒指導の研修を組み込んでいく。

(6) 研究の検証方法

- ①県学習状況調査（4～6年生）や学力標準検査（1～3年生）
- ②児童及び教師への各種アンケートの結果
- ③授業中や授業後、単元終了後などに行われる評価
- ④視点の焦点化を図った授業研究会の協議と指導主事からの指導講評

(7) 研究の組織

研究推進委員会

◎研究主任 校長 教頭 教務主任 六郷

授業改善推進チーム

◎熊木 三浦 木村 高階 千田 校長

学力向上推進チーム

◎六郷 杉井 黒川 小松 加賀谷 教頭